

「第2期第4回環境教育・環境学習推進懇話会」議事録

1 日 時

令和8年2月27日（金） 15:00～16:30

2 場 所

横須賀市役所消防局庁舎3階 消防第3会議室

3 出席者

(1) 構成員

桐谷座長、奈良谷構成員、林構成員、高橋構成員、森構成員、
宮川構成員、遠藤構成員、内船構成員、浅見構成員（計9名）

(2) 事務局（環境部環境政策課）

出雲課長、畔柳課長補佐、山城（計3名）

4 傍聴者

なし

5 会議の流れ

① 開会

② 報告

- ・令和8年度の環境教育・環境学習事業について
- ・令和7年度よこすか環境表彰式について

③各構成員からの活動報告

④その他

6 [報告1] 令和8年度の環境教育・環境学習事業について

事務局から、令和8年度の環境教育・環境学習事業について報告があり、意見交換を行った。

[事務局からの説明]

① 組織改正

経営企画部に「環境政策担当部」を新設する。その中に「環境政策・ゼロカーボン推進課」と「自然環境課」が新設される。これにより、脱炭素、自然環境保護、環境教育といった環境政策全体を俯瞰的かつ一体的に推進できる体制となる。これまで別々の組織で行っていた脱炭素、自然環境保護、環境教育の各業務を集約し、関連部署や外部機関と連携しながら進める。

② 組織改正に伴う事業の移管

現行の環境政策課が実施している環境教育に関する事業と環境基本計画に関する事業は、新設の「環境政策・ゼロカーボン推進課」へ移管する。学校への情報発信や啓発活動を含め、関連情報の一元化を図る。本懇話会についても、「環境政策・ゼロカーボン推進課」に移管する。現行の環境部は「資源循環部」に名称変更し、ごみや大気・水質の対策を行う。資源循環部でも教育には力を入れ、生活環境という切り口で子どもたちにごみの減量やリサイクルに関する啓発を継続する。

③ 新組織での取り組み

環境情報の一体的な発信、環境教育の充実を重点的に推進する。具体的には、市全体の環境政策を一元的に発信するポータルサイトの構築、オンライン環境教育の充実、環境学習に関連した施設等の体験会や見学会を実施する予定である。

④ 令和8年度予算

現在の環境政策課で計上した環境教育関連の予算は93万円である。3月の市議会での議決を経て実施予定である。この予算は、主に環境表彰式の開催費用や指導者派遣謝礼などに充当される。

⑤ 環境教育・環境学習推進懇話会 第3期委員（次期）について

現在の第2期は3月末で終了となるため、4月以降、第3期の委員推薦依頼を予定している。5月上旬頃に委員が決定し、6月に第3期第1回懇話会が開催される見込みである。推薦依頼は新部署から行われる。

■座長

事務局からの説明について、意見や質問はあるか。

■浅見構成員

組織変更に伴い、ホームページのURL変更はあるか。学校に伝えているURLが変わると周知が必要となる。

■事務局

URLは変更される。環境教育に関する情報は、おそらく新設のポータルサイトに吸収されることとなる。しかし、すぐにではないため、決まり次第速やかに案内する。

■奈良谷構成員

新しい部署のマンパワーの増減はどうか。

■事務局

現在の環境政策課から2名程度が新部署へ移管する。マンパワーの大幅な増減はない。

■座長

組織変更に伴う混乱も予想されるため、課題解決に向けた継続的な取り組みを要望する。

7 [報告2] 令和7年度よこすか環境表彰式について

事務局から、令和7年度よこすか環境表彰式について報告があり、意見交換を行った。

[事務局からの説明]

1月31日(土)に令和7年度よこすか環境表彰式をヨコスカ・ベイサイド・ポケットで開催した。来場者は約250名である。内容は「横須賀いいね★エコ活動賞」と「環境ポスターコンクール」の表彰。

横須賀いいね★エコ活動賞は5団体が受賞した。活動内容は配布パンフレットに掲載されているため確認いただきたい。環境ポスターコンクールは市内の小中学生を対象に実施し、入選作品21作品を表彰した。協賛企業・団体がそれぞれ作品を選定する。

今年度の応募数は554枚であり、例年の400枚程度から大幅に増加し、子どもたちの環境問題への関心の高さがうかがえた。今年は特に「海を守ろう」というテーマの作品が多かった。また、「セミが鳴かなくなった」という、温暖化の影響を感じさせる作品もあった。例年にない作品として、太陽光パネルを悪者として描いた作品が複数あった点に、美術の先生も驚いていた。

子どもたちが環境に興味を持ち、表現し、認められる経験は大きな財産となる。今後も新しい部署で継続したい。

(ポスターを投影)

■座長

事務局からの説明について、意見や質問はあるか。高橋構成員はどうか。

■高橋構成員

今回、横須賀市温暖化対策地域協議会としてポスター選定に参加した。太陽が強烈で温暖化が進んでいることを感じさせる作品や、動物の苦しみを表現した作品があった。何としてでも温暖化を止めなければならないという強い意志を感じた。その中で「ストップ温暖化」と書かれた、我々の活動と合致している作品を選んだ。表彰式には会長が参加した。

■座長

米田構成員はどうか。

■米田構成員

毎年表彰式に参加しているが、年々参加者が増えていると感じる。市長やスカリンも参加し、楽しめる場となっている。表彰式で子どもが喜んでいることが何より良い点だと思う。ぜひ継続してほしい。

■座長

他に意見のある構成員はいるか。

■奈良谷構成員

ポスターの応募数の多さに驚いた。関心の高さがうかがえる。青少年育成でも同様に夏休み期間にポスターを募集しているが、応募数が環境ポスターに比べて少ない。スポンサーの力も大きいのではないかと思う。小学生の受賞が多いように感じるが、中学生の応募率と数はどのような状況か。

■事務局

小学生の応募が圧倒的に多い。中学生の応募は少ないが、最終選考で落選した。美術部の生徒が描いたと思われるポスターが多かった。

■奈良谷構成員

青少年育成で中学生をメインにポスター募集をしているが、最近はAIを使って描かれたような作品もある。環境ポスターのように手書きが多いのは素晴らしい。

■座長

セミが鳴かないというポスターがあったが、内船構成員はどうか。

■内船構成員

セミを見かけないといった例年との違いや、夏の暑さを感じる一方、蚊も飛ばなくなったというニュースもあった。そうした身近な自然の「今年は変だ」というところにアンテナを張っていたことが、作品作りに繋がったのだろう。子どもたちが普段見ている世界を垣間見ることができ、素晴らしいと感じた。このポスターは環境に関するという漠然とした枠組みで募集しているのか。

■事務局

その通りである。

■内船構成員

テーマを絞っていない中で、関心の高さがポスターから見えてくる。先ほどのソーラーパネルの例もあったように、時代によって関心の高さが移り変わっていくのは興味深い。博物館としては、この移り変わりを10年、20年単位で振り返ることで、横須賀の環境問題と市民、子どもたちや生活目線の変化が見えてくるかもしれない。10年前は温暖化が多かったかもしれない、ごみ問題があったかもしれない。長く続いている活動であるため、環境問題を子どもたちがこれまでどう扱ってきたかを、歴史的な部分で切り取ることも今後できるのではないかと考える。

■事務局

環境教育の一環で、我々ごみ部門は学校から授業依頼があり、今年もいくつか実施した。先生方からのテーマは、今年は海洋プラスチックごみ問題にしてほしい、といったように多様なオーダーがあり、柔軟に対応できる組織として動いている。実施した学校の生徒からの応募が非常に多かったのが印象的である。授業を通じて、子どもたちが興味を持ち、自分なりの表現をするという流れが見えたのは興味深かった。学校の先生がテーマとして取り上げてくださり、我々がお手伝いをし、子どもが考えて形にするという流れが、多少見えたように思う。

■座長

昔はもう少し漠然とした、例えば「温暖化を止めよう」といったものだったのが、少し具体的に「この課題に対してどうしよう」というような表現になってきているのかなと想像する。

■事務局

それは強く感じる場所である。ポスターの裏側に「どういう思いでこれを書きました」というコメントを書いてもらっている。やはり宿題だからやっているというこ

とではなく、「こうなったら良いな」「こうなったら嫌だな」という思いで書いたという一言を添えてもらっているのが非常に良い。自分たちが伝えたいことが伝わっていると感じられたことも励みとなるし、逆にもう少しこういったところに力を入れていこうという気づきにもなる。

■座長

事務局からあったように、様々な働きかけが、子どもたちの中で適切に消化され、それがこうした表現に繋がっていると捉えることができる。

■高橋構成員

今の話で感じたのは、学校の先生が総合学習であるテーマを取り上げることは、非常に大きな影響を与えるということである。学校の先生にもっと提案ができるの良いと感じた。

■森構成員

小学校の総合学習では、探求課題を定め、それを年間を通して取り組む。年間70時間の配当時間があるため、70時間かけて子どもたちが試行錯誤していく中で、学びが深まっていくと感じている。環境というテーマを扱っている学校もあれば扱っていない学校もあるのが現状である。総合の研究会の方で毎年ガイドブックという、今年度行われた実践例を4月に各学校に配布している。そこに環境をテーマに取り扱った実践も上がってくると思うので、また4月に集約して各学校に情報を発信していく予定である。

■座長

遠藤構成員はどうか。

■遠藤構成員

家庭教育を支援するという点で、社会教育では主に保護者が対象となる。家庭で保護者が子どもに対して教育を行う。しかし、今は時間的・経済的な問題で難しいところがある。こうした子どもの関心を持ったことを家に持ち帰り、保護者と一緒に家族で話すことができると、家庭教育の場で、例えばごみの分別やむやみに捨てることをやめる、といった、生きていく上で当たり前の部分を教えることができる。また、「どうすれば良くなるのか」と子どもに投げかけ、子どもが自分で関心を持って調べたり、学校に来た時に質問したりすることで、子どもの自律心を育てることに繋がる。厳密に言えば家庭教育支援の対象は保護者だが、保護者と子どもと一緒に体験したり、それを元に話したり、体験や時間を共有したりすることで、家庭教育に役立つ

と考える。しかし、発信する側が「家庭教育に役立つ」という思いを持っていないと、なかなか成果が出ないことがある。しかし、予想外のところでどんどん繋がっていくこともある。こうした情報を何らかの形で保護者の方にも知っていただける機会があれば良い。作品の展示であれば、生涯学習センターのスペースで展示が可能である。表彰式の時にも展示されると思うが、その後の空き状況や環境もあるが、行政関係の展示なども行っている。

■座長

家庭教育について、先ほどのポスターの中に、太陽光パネルを悪者、あるいはそうした捉え方で描かれたものもあったという話だった。太陽光パネルが悪者であるとは学校では教えていないはずだ。おそらく家庭やマスコミ、インターネットといった情報から、良くない影響を与えるものとして子どもたちが捉えているのだろう。しかし、太陽光パネル自体が悪いのではなく、どのように設置するかが問題だと考える。子どもたちへの伝え方が大人が適切に伝えていなかったり、非常に偏った見せ方しかしていないのではないかという気もする。そうしたものがポスターに現れてくるのは、少しドキッとさせられると感じた。学校教育だけでなく、家庭や普段の情報発信において、大人が責任を持って情報を出していると思うが、その部分はもっと我々が気を付けていかなければならないのではないかと思った。

■遠藤構成員

おそらくニュースでも、環境破壊をして太陽光パネルを設置する、という報道が非常に多いため、そうするとそこだけの見方しかしないだろう。日本において人が生活していく上では、環境と折り合いをつけていく必要がある。太陽光パネル自体は発電に役立つが、設置の仕方や場所が問題であるというのであれば、家庭の中で「どうすれば良いのか」を話し合うことが重要だ。子どもが小さいと難しいところもあるが、やはり大人は一方的なことだけでなく、「どう思うか」や良い面・悪い面の両面を伝えることが非常に大切だと考える。

■座長

非常に一面的な訴え方をするのではなく、遠藤構成員が述べたように、良いところもあれば悪いところもあるため、両方をきちんと見ながら、そして今どうすべきかをきちんと考えて進めていくことが非常に重要である。

■林構成員

関心を持ったのは、森構成員が述べた「学校で総合学習でどのようなことをしているか」というまとめのガイドブックを見てみたいという点である。

■米田構成員

協賛企業として選ばせていただいたが、応募作品すべてを見ることは可能か。

■事務局

記録に残しておらず、すでに返却済みである。すべてをスキャンしてはいない。

■米田構成員

応募したという実績を残す場があっても良いのではないか。

■事務局

そうすると内船構成員が述べたような、「この年はこういうテーマが多かった」ということも分かる。今は第一段階で美術の先生が見て、落選したものは基本的に我々の目には触れることがないため、この辺りはもう少し検討していきたい。ありがとうございます。

■米田構成員

知り合いで3年連続で応募している子どももいる。550枚もあると難しいとは思いますが、本人も見ることがあれば良い。また、難しいとは思いますが、中学生の部門を作ってあげても良いかもしれない。参加して受賞者全てが小学生だと少し偏りがある。

■事務局

クリーンよこすかという業務も担当しており、そちらもポスターコンクールがあるが、環境ポスターと同様に約500点の応募があり、中学生も応募している。中学生が数点受賞することもあるが、その年によって異なる。やはり圧倒的に中学生の応募母数が少ない。また、例えば1年生のような子どもたちの作品が審査員の心をつかむ傾向があるように感じる。見ていると、鮮やかな色合いで強いメッセージを幼いながらも一生懸命表現しているところが響いているのではないかと思う。

■奈良谷構成員

レギュレーションのようなものがあっても良いのではないか。

■事務局

最終選考に残す際は、各学年がなるべく平等になるようにしている。その中で協賛企業・団体に選んでもらうが、今年は中学生の作品が選ばれなかった。中学生の作品

は絵としては上手だが、「何を訴えかけているか」という点で、幼い子どもの素直な表現が響く傾向にある。

■高橋構成員

審査は1名が行っているのか。

■事務局

複数で行っている。

■高橋構成員

最終候補に出すための選考をする方も複数名なのか。

■事務局

美術の先生と我々職員の3名程度で選別している。

■奈良谷構成員

夏休みは特に様々なポスターの募集が多い。

■事務局

複数のポスターを一括で募集している。自分の見えている範囲と我々の担当分野がうまく合致し、合わせて1,100以上の募集があった。

■座長

あまり深掘りしてもどうかという気もするが、やはり中学生の応募が少ないこと、結果的に選ばれていないことが気になる。中学になると環境に対する意識が薄くなるわけではない。

■事務局

わざわざ夏休みに絵を描かないのだろうか。応募数が減るのは、そのような想像をしている。自分の子どもを見ても、夏休みにポスターを描いていた記憶はあまりない。

■高橋構成員

中学生になると、まず一つは受験がある。それからもう一つはクラブ活動が始まる。そのため、夏休みといっても時間が取れない子どもが増えるように感じる。

■事務局

学校によっては「今年はこれをやりましょう」と決めることもあるようで、例えば人権作文を必須にしていたりする。ポスターについても「今年はクリーンポスターを描きましょう」といったように、先生がある程度方向性を示す。それは学校によって異なるという話を聞いている。

■奈良谷構成員

しかし中学生の応募が10件から20件あるのであれば、1件や2件は表彰しても良かったのではないかな。

■事務局

昨年は環境ポスターでも中学生の作品が選ばれたが、今年は選ばれなかった。

■座長

小学生しか受賞していないと、小学生だけのものという印象を与えてしまい、もったいない。そこは少し検討していくべきである。

■事務局

最終審査では最終的に40枚残すが、学年ごとに大体平等な枚数になるように残している。その中で企業さんに選んでもらうが、今年は選ばれなかった。

■高橋構成員

最終選考時のイメージとして、中学生は絵が上手である。だから絵としては上手だが、ポスターとして問いかけているという点では、小学生が選ばれる傾向にあると感じた。確かに絵は上手だが、それが絵として見えてしまい、直接伝わってくるものが少ない印象であった。

■奈良谷構成員

審査も大人だけでなく、年齢層をもう少しランダムにしてもいいのではないかな。大人に響くものと若い世代に響くものは異なる。

■事務局

来年度に向けて色々と検討させていただく。ありがとうございます。

■座長

浅見構成員はどうか。

■浅見構成員

教育研究所では、理科の自由研究を集めているが、中学校の先生から「自由研究を研究所に出して良いのか」という質問が来る。もしかしたら中学校の先生方が「この環境ポスターは提出して良いのか」と思っていることもあるのかもしれないと思った。美術の作品として出すのか、それとも何の作品として出すのか、中学校の先生方にうまく周知が届いていないこともあるのではないかと思った。

■座長

事務局には構成員からの意見をぜひ参考にさせていただきたい。

7. 各構成員からの活動報告

■座長

8月に生涯学習センターで、センターの職員向けに環境に関する1時間少々話をした。元自動車会社にいたということもあり、「車と環境、これまでとこれから」というタイトルで実施した。環境に対応した車が次々と登場し、電気自動車も開発された背景を開発者の視点から話した。普段聞けない話題だったため、皆さんに楽しんでいただけたと思う。

最近の活動としては、1月に新潟の長岡市に行った。ちょうど大雪警報が出ており、新幹線は動いていたが、在来線が全てストップという状況の中、雪かきをした。温暖化は暑くもなるが、雨や雪が降るところには降るが、降らないところには全く降らないという状況を体験した。関東では雨が降り続かない日が続いていた。温暖化の影響を実体験した。

昔、大きな地震で被害を受けた山古志というところに行った。屋根の上に3メートル近く積もっていた。まず屋根に登るのが大変である。高齢者しかいない住宅もあり、雪を下ろさないと家が潰れてしまうため、安全を確認しながら作業する方法の指導を受けた。

こうしたことから、実際に温暖化や気候変動が起こると、人々の生活にどのような影響があるのかを、自身の体験として得ることができた。簡単な報告だが、私の最近の報告は以上である。

■米田構成員

3メートルも積もって家は潰れないのか。

■座長

長岡市内は2メートル積もっても大丈夫なように作られている。山の方の木造の家などは、それだけ積もってしまうと危険であるため、本来は1メートル程度で雪を下ろした方が良いのだが、雪が降り続くと下ろすのも大変である。ニュースなどでも報道されているが、今年も多くの方が亡くなったり怪我をしたりしており、ニュースに出てこないものも多い。実際に我々の生活に影響が出ていることを本当に間近で体験した。

■奈良谷構成員

市内での活動はなかなか時間が取れず、あまりできていない。企業の方で取り組んでいるのはエネルギー分野である。発電所から電気を取るのではなく、自分たちで発電しようという取り組みを進めている。パネルが悪者という話しが先ほど出ていたが、パネル自体が悪いのではなく、その設置の仕方が問題なだけだと思う。

雪の話が出たので紹介したいのだが、私の主戦場は仙台から30キロほど離れた場所にあるが、もう一つ岩手にも工場がある。そちらは雪が多く、除雪費用も非常にかかる。その雪を学校のプールのような場所に冬の間を除雪して集め、シートを被せて、夏場にクーラー代わりに使っている。ただ、最近やはり雪が少ない。10年ほど見ているが、今年も非常に少ない。日本海側は非常に降っているのだが、太平洋側は本当に降らなくなっている。以前はそんなことはなかったのだが、やはり変動していると肌で感じた。

また、木が枯れるということも以前は全くなかったのだが、枯れている木を目にすることがある。

学校活動としては、宮城県の近くの学校で日程が合えば実施している。海のことを話したいのだが、海に行かない子どもが多く、海のネタはできないため、川や池をテーマにしている。そちらの方ではまだドジョウや川にタナゴがいる。あえて横須賀の話をして、「横須賀ではタナゴは見られない」と話して比較している。違いを少し話して、「きれいにしないとなくなってしまう」という話をしている。

■林構成員

1つ目はこどもエコクラブでの活動。武山の麓、または西の公園で自然観察会を実施している。自分の孫や孫の友人なども数名集まってもらい、観察会を行っている。

2つ目は学校での出前授業である。今年度は武山支援学校の津久井浜分室で実施した。そこで海のごみなどについて授業をした。話をした1週間後くらいに、生徒たちが自分たちで津久井浜の海岸でビーチクリーンを行った。かながわ海岸美化財団に報告し、集めたごみを全て片付けてもらうなど、うまくいっている様子。津久井浜で大きなイベントがあったら、ごみの清掃に片付けに行ったり、それ以外の時も定期的に

行っているため、良い活動である。来年度も依頼を受けている。

3つ目は猿島でのガイドである。今年度、環境政策課の自然探察会はなくなったため、その分は減少したが、それでも横須賀市内のいくつかの学校や、神奈川県、東京都の学校関係も来てくれた。神奈川県や東京都の成人学校や、高齢者の勉強会でも来てくれた。山梨県とは交流会も実施した。戦争遺跡がある関係で、それらを使った平和教育などにも活用された。再来月発行される会報 32 号に掲載される予定であるため、ぜひ見てほしい。

猿島ガイドの中で、これまで見られたものが見られなくなったことがある。毎年11月から2月頃は富士山やスカイツリーが当たり前に見えていたが、最近は10日に1回程度しか見えなくなり、明らかに一昨年くらいから見えなくなった。同様に、見られなくなった、少なくなったと感じるのは、アサギマダラ。いつ見られたかなども記録しているが、これも例年と明らかに変わっている。セミがいつ鳴いたかなども記録しているが、これも同様である。兵舎弾薬庫を案内している中で、今年の夏はほぼゲジゲジがいなかった。逆に明らかに増え、見られるようになったのは、トカゲやネズミである。最も驚いたのは、12月から2月頃まで、ウグイスが見られたことである。ウグイスは我々が目視することはほぼなかったが、船着場に現れて我々を歓迎し、お客さんが大喜びする、ということが何度もあった。これまでと明らかに違うことを本当に強く感じる。

4点目は、武山に住んでいるが、つつじの里にしようということで、つつじを植えたり草をむしったり、水をやったり、道路の整備などを行っている。

5点目は研鑽や研修である。日本自然保護協会での研修を受けたり、宮川構成員のところで、今年の春と秋に研修会に参加させていただいた。残念ながら春は体調不良で行けなかったが、秋は参加させていただいた。

■高橋構成員

私は横須賀市地球温暖化対策地域協議会に所属しており、そこで行っている活動について報告する。

まず1点目、温暖化対策出前トークである。地域協議会に出前トークをしてほしいという依頼が、今年3件あった。50枚ほどのスライド資料を作成し、まずは地球温暖化が現在どのような状況にあるか、温暖化が進むと地球がどうなるか、我々としてできる対策は何か、といった内容を話している。大体出席される方は町内会の方々が多く、高齢者が多い。高齢者の方には、お子様やお孫様のために住み良い地球を残すために、こうしたことをやってほしいという切り口で話している。皆さん議論も活発で、温暖化に対して関心を持っている方が多いという印象である。

つい最近、生態系の変化についても聞きたいという依頼があり、まず「なぜ温暖化が生態系の変化に影響しているのか」を話した。一つは高温になること、干ばつが

起きることで、生物たちの住処が失われること。それから局地の氷が溶けることで、例えばホッキョクグマが北極の氷の上で漁をしながら生活している場が奪われるなど、様々な要因で起こっている。生態系で絶滅の危機に瀕している種が、温暖化の影響だけで8,000種ほどある。2000年頃は温暖化の影響はほとんどなかったのが、ここ数年で急に増えているという、大きな状況が進んでいることを話した。

そうした大きな例と、身近な例として、私を感じたのは、最近クマゼミの声がよく聞こえることである。私たちが子どもの頃はクマゼミはほとんどいなかった。クマゼミは本来南方系のセミである。それがだんだん増えてきたということは、横須賀でも実感として温暖化が進んでいることが分かる、ということをお話した。何としても今できる対策をしなければならない、ということをお話した。

2点目、夏休みに子どもたちの宿題の一環として、ゼロカーボンコンテストを実施した。温暖化対策について自分たちがやっていることの内容と成果を募集する活動である。今年は小中学生で114件の応募があり、最優秀賞2点、優秀賞6点、佳作18点を表彰した。表彰式ではなく、表彰を受けた子どもの学校に行き、校長先生にお会いして、「校内で立派な応募された方がいましたので、ぜひ校内で表彰してほしい」というお願いをして回った。

やはり少しずつ子どもたちの関心に変化しており、最近は特に節電・省エネはもちろんあるが、食品ロスを削減しようという話も出てきている。それからごみの問題、リユース・リサイクルなど、関心が様々な分野に広がってきていると感じる。子どもたちの身近な問題として温暖化が挙げられ、それが節電・省エネだけでなく、食品ロスというところまで関心が広がっていることが非常に印象的であった。

3点目、市内の成人の方々に、緑のカーテンコンテストを実施している。夏の暑い時にゴーヤや朝顔でカーテンを作ると、直射日光と照り返しがなくなり、非常に涼しくなる。その結果としてエアコンの使用量も減るという趣旨で、ぜひ広めたいと考えている。皆さん立派なカーテンを育てられており、10株ほど育て、幅3メートル、高さ5メートルくらいのカーテンを作る方もいる。そうしたことに関心を持つ方も増えてきていると実感している。以上の活動を今年度実施した。

■米田構成員

周知のとおり、追浜工場はあと2年で生産を終了する。そのため、懇話会へは2年間は参加する予定だが、今後は随時相談という形をお願いしたい。また、今年5月で自身が定年となる。この懇話会に参加するのも最後になるかもしれない。様々な意見を聞くことができ、有意義な時間となった。

■浅見構成員

教育研究所では、子ども向けに全8回の土曜科学教室を開催した。

第1回目は博物館にお願いし、博物館でどのようなものを展示しているかや、化石のレプリカを作ってみようという内容を3、4年生向けに実施した。40人の定員にだいたい80から90人ほどの応募があり、毎回非常に人気がある。

第2回は日産自動車にプログラミングについて教えてもらった。障害物があったら避けるプログラムをどう作るか、オートライト機能などについて5、6年生向けに実施した。5年生は日産の追浜工場に見学に行くことができるため、そうしたこともあり、5、6年生は非常に興味を持っている。これも40人の定員に6、70人ほどの応募があった。

また、6月24日の懇話会時に、東京ガスの担当者が来ており、声をかけたことで、次年度の土曜科学教室のお願いができた。懇話会是他部署や外部団体と関われる有意義な場となっている。

■内船構成員

1月31日と2月1日に「みんなの理科フェスティバル」という理科イベントを開催した。第9回目を迎え、長く続けている。

今年も様々な団体に出店いただいた。自然環境・河川課には自然環境講演会や、観察会の成果発表をしていただいた。今年は関東学院大学の泥団子が大変好評であった。文化会館の3階ギャラリーを貸し切って開催しているが、今年は2日間合わせて約1500人弱の来場者があり、これまでで最も多かった。毎年1月の第4土日頃に開催しているが、今年は会場の都合で1週遅らせた。重なっていなければ、環境表彰式に行きたかった。

また3月に「探究！身近な昆虫 撮り歩き」という企画展を行うため現在準備している。私が10年以上続けている、身近な自然をカメラを通じて記録していく活動をテーマにした展示である。現在は埴輪の展示を行っている。3月の終わりからは昆虫の写真の展示もあるため、合わせて見ていただければ幸いである。

博物館の海洋生物担当の学芸員が1年前に定年で退職し、昨年4月から新しい海洋生物担当の学芸員が着任している。シャコを専門としており、シャコを中心に、あらゆる海洋生物と陸上の脊椎動物を幅広く手掛けていこうと意気込んでいる。何かの機会であうことがあるかもしれないので、よろしく願いしたい。

■遠藤構成員

市民大学で三浦半島の自然に関する講座や、環境に関する講座をいくつか行っている。年度によって異なるが、博物館の学芸員に来ていただくこともある。

生涯学習センターは廊下などの空いているスペースで展示を行っている。環境ポスターコンクールの展示などでもぜひ活用してほしい。

情報提供として、私自身は社会教育主事として発令された。専門的教育職員という

立場であるそうだ。教育委員会の事務局には必ず置かなければならないとされている。

社会教育主事の養成課程が少し変わり、令和2年度から社会教育士というのを自分で資格を取って名乗って良いことになった。若い人たちは新しい情報を入れた上で、ファシリテーションの能力があったり、講座作りや課題解決の方法を学んでいるため、教育委員会だけでなく、市長部局だったり、様々なところに配属された時に、その力を活用できる。

社会教育主事自体は全国的に非常に減少している。ただ、養成課程を受講する学生は増加している。その学生たちはどうするかというと、教育委員会で社会教育主事になるのではなく、様々なところで社会教育士として自分の学んだことを活かして働きたいという思いを持っている方が多い。

もしそうした方が課に配属されたら学校に行き行って話をしたりするなど、非常に役立つだろう。ぜひそうした資格を持っている人が来たら活用してほしい。

神奈川大学と創価大学から、3年前から社会教育実習生を受け入れており、博物館、図書館などの社会教育施設などで実習していただいている。教育委員会以外が行っている社会教育ということ幅広く捉えるため、実習を健康部にも見ていただいたことがある。日程が合えばということもあるが、この環境教育に絡むようなところで、エコツアーのようなものであったり、実習生の実習に協力いただけるようなことがあれば、ぜひご協力をお願いしたい。

神奈川大学で生涯学習財団の局長と話した際に、社会教育主事を目指す人はいるのか学生に聞いてみたら誰もいなかった。皆社会教育士になりたいとのことだったので、やはり幅広いところで、社会教育士の技を活かされると良い。ぜひ学校も含めて、そうした方がいらっしゃったら、力を貸していただければと思う。

■宮川構成員

学区の自然体験を実施している。今年は例年以上に好評で、12校募集しているが、1つの学校で複数の学校から申し込みがあったりした。1つの学校につき4回まで授業が可能であるため、合計48回の授業ができるのだが、例年は30回程度だったところ、今年は48回の授業を実施している。

また自然観察会、生き物調査隊も実施している。親子で参加している方もいた。参加した方の中から、理科フェスティバルにポスターを出展した。

先ほど話しに上がった理科フェスティバルと同時に開催した自然環境講演会は、2時間講師に講演していただくのだが、時間が長いので、これまで大人の参加者がほとんどだった。しかし、私としてはなるべく若い方に聞いてもらいたいと思っており、今年は小松貴さんという昆虫学者に講演いただいた。NHKの「子ども科学電話相談」に出演したり、他のラジオ番組にも出演している方である。本も多数執筆している。

今年、思い切って声をかけてお願いしたところ、快諾してくれた。例年、子どもは中学生くらいの方がせいぜい1、2名だったが、今年は中学生以下の方が2割程度参加し、合計94名が参加した。小松貴さんのファンの方なども来てくれた。やり方によっては、子どもも来てくれることが分かった。講師の1時間の講演の後に、トークセッションを30分行った。内船構成員にも出ていただいたが、非常に好評であった。来年度もなるべく若い方が聞きたいと思うような講師を呼びたいと思っている。

■森構成員

今年度の活動として3点挙げる。

まず1点目として、城北小学校での私自身の実践である。今年5年生を担当させていただいた。その中で総合の活動において、NPO 三浦半島生物多様性の方にゲストティーチャーとして参加いただき、衣笠山の麓の若芽の里で、米作り体験をさせていただいた。その中で米作りや、東京オオサンショウウオなどの生き物、そして環境について学ばせた。

また、各教科の授業という点では、理科や道徳科で環境に関わる内容を扱ったり、社会科で日産様を訪問させていただいたりした。子どもたちが実際に現場を見る中で、一生懸命メモを取りながら、生き生きと学ぶ様子が見られた。同様に社会科で食品ロスの問題を扱ったりした。

個人的な話になるが、教職に就いてからプライベートでサーフィンや畑を行っており、ホームルームの時などにサーフィンをする中で感じた温暖化について話すことがある。満潮時はこれまで難なく海に入ることができたが、横須賀の中でもかなり海面が上昇していると感じる。また、畑ではフキノトウが出てきた、といった話を日頃からしている。

2点目は、総合の研究会での業務についてである。よこすか環境表彰式で追浜小学校の3年生の永山先生が、今年の1年間の総合の研究会の方での授業実践者として取り組んでおり、内船構成員の話もたくさん聞いていた。指導案検討や、公開授業にも参加させていただき、研究会の方でも、年間を通して、追浜小学校の3年生と永山先生がよく頑張ったと感じた。

3点目として、これも総合の研究会の中で、夏季研修を環境政策課と教育研究所とタイアップして実施した。ペットボトルのリサイクルをメインに指導していただいた。当日は津波警報で中断になったが、後日オンラインで再度日程を調整いただき、別日に受講することができた。

私自身、今回初めて懇話会に参加させていただき、普段は学校での業務が多いのだが、こうして学校の外に出て、様々な立場の皆様の話聞くことができ、大変勉強になった。

8 事務連絡

■事務局

以下の3点について事務局から連絡

(1) 議事録について

議事録を作成次第送る。内容のご確認と、今日の報告に関する追加のご意見があればメール等でいただきたい。

(2) 駐車券処理について

車で来場された方は、終了後申し出があれば駐車券の処理を行う。

(3) 第3期懇話会について

今回で第2期は終了。第3期に向けて、4月以降に委員推薦依頼を行うので、引き続き協力を依頼する。

9 閉会

■座長

以上をもって、第2期第4回環境教育・環境学習推進懇話会を終了する。